【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	解剖学Ⅰ						
担当講師	似鳥　徹						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	60	開講時期	前・後期
授業形態	講義　実習						

授業概要

正常な人体及び身体各部位の構造と機能を理解し、疾病時に起こりうる形態及び機能的な変化の状況の理解を助ける基礎を作る目的で、人体の基本構成単位である細胞とその組み合わせにより構成される組織及び各器官群の構造と機能について、解剖学的な視点にたって教授する 。

学修到達目標

ヒトの顔や体つきは各人様々であるが、人体としての構造と機能はほぼ一定している。自らの身体の構造や機能を学び、正常に“生きる”機構を理解することによって、疾病や障害に陥った医療対象者の身体状況を客観的に正しく認識出来るよう知識を身に着け、見識を養うことを目標とする。

授　業　計　画

第1回	解剖学総論
第2回	運動器系（骨格系と筋系）の発生と組織構築について
第3回	上肢の解剖Ⅰ：骨格の構成（1）
第4回	上肢の解剖Ⅱ：骨格の構成（2）
第5回	上肢の解剖Ⅲ：筋および関節の構成（1）
第6回	上肢の解剖Ⅳ：筋および関節の構成（2）
第7回	下肢の解剖Ⅰ：骨格の構成（1）
第8回	下肢の解剖Ⅱ：骨格の構成（2）
第9回	下肢の解剖Ⅲ：筋および関節の構成（1）
第10回	下肢の解剖Ⅳ：筋および関節の構成（2）
第11回	消化器系の構成
第12回	呼吸器系の構成
第13回	内分泌系の構成

評価方法

期末試験の成績を評定の対象としますが、必要に応じてレポート課題提出求め、対象に加えます。

教科書

標準理学療法・作業療法　専門基礎分野 解剖学（医学書院）
人体解剖カラーアトラス（南江堂）

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

教科書の講義予定範囲を熟読して予習を行って下さい。受講後は当日中に復習し、理解できなかった点に関しては速やか質問して疑問を解消してください。質問は随時受け付けます。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	解剖学Ⅱ						
担当講師	小野寺　悟						
実務経験の概要	医師として、大学での神経解剖学研究・教育にかかわってきた。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	60	開講時期	前・後期
授業形態	講義						

授業概要

解剖学は人体の構造を骨格系、筋系、神経系等の１０項目の系統にわけて、それに所属する器官の構造を働きと関連付けて理解することを目的とします。人体解剖学見学実習は一日かけて岩手医科大学で行います。特に初期胚から胎児までの貴重な標本も観察し、ヒトの発生過程を知ることによって生命の大切さに触れることを目指している。

学修到達目標

前期はまず初めに、人体は200種類の細胞、4種類の組織、１０種類の器官によって構成される階層構造であることを理解する。次に骨格系の中で、体軸を構成する軸骨格（頭蓋、脊柱・胸郭）を理解する。最後に複雑な中枢神経系の構造・機能を理解する。　後期は循環器系と泌尿生殖器系の構造・機能を理解する。前期・後期の授業を通して、学生自身が自ら教科書を読み込んで理解し、自ら使える知識を得るという『学習の基本的技術』を身に付けることができる。

授　業　計　画

第1回　解剖学総論
第2回　人体の構成：A.　細胞
第3回　B.　組織　C.　器官、器官系、個体
第4回　骨学各論：A.　頭蓋
第5回　骨学各論：B.　脊柱、胸郭
第6回　人体の発生：体つくりのプロセス、四肢の発生プログラム
第7回　神経系Ⅰ　神経系総論
第8回　Ⅱ　中枢神経系　A.　脊髄
第9回　B.　脳幹　C.　小脳
第10回　D.　大脳
第11回　循環器系
第12回　泌尿・生殖器系

評価方法

小テスト　期末試験

教科書

標準理学療法・作業療法　専門基礎分野 解剖学（医学書院）
人体解剖カラーアトラス（南江堂）

参考図書･文献

講義中に、興味深い書籍は随時紹介する。

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖学の学習は、教科書を読み込んで、必要な知識は自ら身に付けなければならないという医学教育のための『学習の基本的技術』を身に付ける最初のステップであり、教科書と仲良くなる事が大切である。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	生理学Ⅰ						
担当講師	川崎　敏						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	60	開講時期	前期
授業形態	講義　実習						

授業概要

生理学は人体の正常な機能を研究する学問です。生理学は、大きくは動物性機能と植物性機能に分けられますが、
生理学Ⅰでは、主に神経系、筋系、感覚器系に代表される動物性機能について学びます。
また、動物やヒトの体を使った実習も行い、講義の理解を深めます。

学修到達目標

1．神経系の構造、膜電位、活動電位、興奮伝導、シナプス伝達について説明できる。
2．感覚系における刺激の変換機構、伝導路、中枢での情報処理について説明できる。
3．運動系における、筋の収縮機構、脊髄および脳運動中枢による運動と姿勢の制御について説明できる。
4．高次脳機能としては、睡眠と覚醒、記憶と学習、情動などの神経機構について説明できる。

授　業　計　画

第1回　細胞の構造と機能調節　（1）
第2回　細胞の構造と機能調節　（2）
第3回　膜興奮とイオンチャネル：　静止膜電位
第4回　膜興奮とイオンチャネル：　活動電位の発生機構
第5回　膜興奮とイオンチャネル：　活動電位の伝導機構
第6回　膜興奮とイオンチャネル：　神経線維の刺激と興奮伝導の記録
第7回　演　習１
第8回　筋の収縮機構：　骨格筋
第9回　筋の収縮機構：　心筋・平滑筋
第10回　シナプス伝達：　神経・筋接合部
第11回　シナプス伝達：　中枢神経系のシナプス伝達
第12回　演　習２
第13回　自律機能と本能行動：　自律神経系
第14回　自律機能と本能行動：　視床下部、辺縁系
第15回　感覚機能：　体性感覚　（1）
第16回　感覚機能：　体性感覚　（2）
第17回　感覚機能：　視覚
第18回　感覚機能：　聴覚
第19回　感覚機能：　前庭感覚
第20回　感覚機能：　味覚・嗅覚
第21回　演　習３
第22回　運動と姿勢の制御：　脊髄　（1）
第23回　運動と姿勢の制御：　脊髄　（2）
第24回　運動と姿勢の制御：　脳幹
第25回　運動と姿勢の制御：　運動性皮質

第26回　運動と姿勢の制御：　大脳基底核

第27回　運動と姿勢の制御：　小脳

第28回　脳の統合機能:　大脳皮質の構造と機能、睡眠と覚醒、学習と記憶（１）

第29回　脳の統合機能:　大脳皮質の構造と機能、睡眠と覚醒、学習と記憶（２）

第30回　演　習４

評価方法

試験（90%）、レポート（10%）

教科書

シンプル生理学改訂第8版（南江堂）

参考図書･文献

人体の正常構造と機能（日本医事新報社）、臨床神経科学とリハビリテーション（西村書店）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

物事には必ず理由があり、意義もあります。丸暗記するのではなく、常に理由と意義を考えて理解して下さい。講義中、どんどん質問してください。メールでの質問は、kwskmmtrw@icloud.comへ。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	生理学 II						
担当講師	駒切　洋☒						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	60	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

生体が持つ生命維持に必須な機能である植物機能について器官別に講義を行う。
適宜、演習問題や実習を行い知識の理解、定着を促す。☒

学修到達目標

器官ごとの個別の機能にとどまらず、器官どうしの機能的な連関にも注目し、生体がいかに身体の恒常性を保っているかを理解することを目標とする。

授　業　計　画

第1回	血液の生理 血液の組成と働き
第2回	血液の生理 血液凝固・止血
第3回	血液の生理 生体の防御
第4回	血液の生理 免疫の仕組み
第5回	循環器の生理 心臓の構造と機能 1
第6回	循環器の生理 心臓の構造と機能 2
第7回	循環器の生理 心電図
第8回	循環器の生理 循環動態　血圧
第9回	循環器の生理 特殊循環
第10回	呼吸器系 呼吸と換気
第11回	呼吸器系 呼吸機能
第12回	呼吸器系 呼吸の調節
第13回	運動時の人体機能の変化
第14回	問題演習と解説（血液・循環・呼吸）
第15回	消化器系 消化管運動
第16回	消化器系 消化と吸収
第17回	栄養と代謝（中間代謝）
第18回	演習I 循環器　運動生理
第19回	栄養と代謝（エネルギー代謝）
第20回	演習I 循環器　運動生理
第21回	体温の調節　熱産生、熱放散
第22回	問題演習と解説（消化器・栄養と代謝・体温）
第23回	泌尿器系　腎臓の構造と働き1
第24回	泌尿器系　腎臓の構造と働き2
第25回	体液と酸塩基平衡
第26回	演習II 腎臓の機能　体液の調節

第27回　内分泌系　総論　内分泌器官とホルモン

第28回　演習II 腎臓の機能　体液の調節

第29回　内分泌系　各論　内分泌の仕組みとはたらき

第30回　問題演習と解説 (腎機能と内分泌)

評価方法

期末試験 (80%)・レポート（20%）：期末試験には講義内容だけでなく実習内容からも出題する

教科書

シンプル生理学改訂第8版 (南江堂)

参考図書･文献

人体の正常構造と機能（第4版:日本医事新報社）, 人体の細胞生物学（日本医事新報社）, 生理学テキスト（第9版:文光堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義で聞いた内容を教科書、参考書を読んで必ず復習し、疑問点を早めに解消する。
演習問題の解説(計3回)をもとに各単元のポイントを整理して理解する。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	運動学Ⅰ						
担当講師	高橋　正基						
実務経験の概要	：作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

生体力学の基礎を学ぶ。
四肢・体幹の運動概念と動作のメカニズムを学ぶ。

学修到達目標

1．各生体力学の概要を述べることができる。
2．骨・関節・筋に関する構造と機能、その他の内容をまとめ、述べることができる。
3．身体運動を骨・関節・筋の観点で捉え、その内容を述べることができる。

授　業　計　画

第1回　運動学とは（運動学総論）
第2回　生体力学：運動の種類、速度・加速度、角速度・各加速度
第3回　生体力学：力の概念（大きさと方向、合成と分解、重力と落下運動、摩擦力）
第4回　生体力学：運動と力（運動量、慣性の法則、運動の第２法則、作用・反作用、重心）
第5回　生体力学：運動とエネルギー（仕事、仕事率、力学的エネルギー）
第6回　生体力学：回転運動（モーメント、てこ）
第7回　骨（構造と機能）
第8回　骨（身体各部位の骨位置と名称、特徴）
第9回　骨（身体各部位の骨位置と名称、特徴）
第10回　関節（構造と機能）
第11回　関節（関節運動、運動軸、運動面）
第12回　関節（関節運動、運動軸、運動面）
第13回　筋（骨格筋細胞、基本構造）
第14回　筋（筋収縮のメカニズム、筋収縮様式、収縮の力学的特徴）
第15回　筋（筋収縮と筋力、筋の機能、形態的変化）

評価方法

筆記試験（中間試験（50%）　期末試験（50%））

教科書

基礎運動学（医歯薬出版）　　エッセンシャル・キネシオロジー（南江堂）

参考図書･文献

標準理学療法学・作業療法学　運動学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適時、講義を受けるにあたっての準備課題を課すので、確実に遂行し準備してください。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	運動学Ⅱ						
担当講師	西城　学　　細川　康紀						
実務経験の概要	西城　学　　：作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川　康紀　：作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義　演習　オムニバス						

授業概要

解剖学、生理学、運動学Ⅰの知識に基づき各関節の運動について理解を深めていきます。また、人の運動、動作を捉えるにあたり、その基礎となる知識を学びます。

学修到達目標

1. 各関節の運動について述べることができる。
2. 人の姿勢、運動、動作の基礎的知識を理解し、説明することができる。
3. 運動、動作を分析するための手法を理解し、説明することができる。

授　業　計　画

第1回	関節運動学①（肩甲帯・肩関節）	細川　康紀
第2回	関節運動学②（肩甲帯・肩関節、運動分析含む）	細川　康紀
第3回	関節運動学③（肘関節・前腕・手関節）	細川　康紀
第4回	関節運動学④（肘関節・前腕・手関節、運動分析含む）	細川　康紀
第5回	関節運動学⑤（手指）	細川　康紀
第6回	関節運動学⑥（手指）	細川　康紀
第7回	関節運動学⑦（股関節・骨盤）	西城　学
第8回	関節運動学⑧（膝関節・足関節）	西城　学
第9回	関節運動学⑨（体幹）	西城　学
第10回	関節運動学⑩（頭部・頸部、身体とてこ）	西城　学
第11回	姿勢（重心、姿勢の類型、姿勢の安定性）	西城　学
第12回	基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、着座）	西城　学
第13回	歩行（歩行周期、運動学的分析、運動力学的分析、異常歩行）	西城　学
第14回	随意運動	西城　学
第15回	咀嚼・表情筋について	西城　学

評価方法

筆記試験（中間試験（50%）　期末試験（50%））

教科書

基礎運動学（医歯薬出版）　　エッセンシャル・キネシオロジー（南江堂）

参考図書･文献

標準理学療法学・作業療法学　運動学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後とにも30分以上

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	運動学実習						
担当講師	西城　学　　高橋　正基						
実務経験の概要	西城　学　：作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 高橋　正基　：作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	実習　グループワーク　オムニバス						

授業概要

解剖学、運動学の知識をもとに骨、関節、筋、靭帯を触診する技術を学びます。たま、その知識、技術をもとに姿勢分析、動作分析を行い、臨床で活用できることを目指します。

学修到達目標

1．各身体部位の触診ができる。
2．姿勢を分析し、その内容をまとめ、述べることができる。
3．動作を分析し、その内容をまとめ、述べることができる。

授　業　計　画

第1回	触診実技オリエンテーション	西城学　高橋正基
第2回	骨触診実技：上肢（肩甲帯・肩・肘・前腕・手関節・手指）	西城学　高橋正基
第3回	骨触診実技：上肢（肩甲帯・肩・肘・前腕・手関節・手指）	西城学　高橋正基
第4回	骨触診実技：下肢（股･膝・足関節･足部）	西城学　高橋正基
第5回	骨触診実技：下肢（股･膝・足関節･足部）	西城学　高橋正基
第6回	骨触診実技：頚部・体幹	西城学　高橋正基
第7回	骨触診実技：頚部・体幹	西城学　高橋正基
第8回	筋触診実技：上肢（肩甲帯・肩・肘・前腕・手関節・手指）	西城学　高橋正基
第9回	筋触診実技：上肢（肩甲帯・肩・肘・前腕・手関節・手指）	西城学　高橋正基
第10回	筋触診実技：下肢（股･膝・足関節･足部）	西城学　高橋正基
第11回	筋触診実技：下肢（股･膝・足関節･足部）	西城学　高橋正基
第12回	筋触診実技：頚部・体幹	西城学　高橋正基
第13回	姿勢・動作分析実技オリエンテーション	西城　学
第14回	姿勢分析実技：臥位・座位・立位	西城　学
第15回	姿勢分析実技：臥位・座位・立位	西城　学
第16回	動作分析実技：基本動作（寝返り・起き上がり）	西城　学
第17回	動作分析実技：基本動作（寝返り・起き上がり）	西城　学
第18回	動作分析実技：基本動作（立ち上がり・着座）	西城　学
第19回	動作分析実技：基本動作（立ち上がり・着座）	西城　学
第20回	動作分析実技：歩行	西城　学
第21回	動作分析実技：歩行	西城　学
第22回	まとめ：バランス評価、姿勢バランス検査（functional reach tesut、TUG）、10m歩行	西城　学
第23回	まとめ：バランス評価、姿勢バランス検査（functional reach tesut、TUG）、10m歩行	西城　学

評価方法

実技試験（50%）　　筆記試験（50%）

教科書

機能解剖学的触診技術　上肢、下肢・体幹（メジカルビュー社）　　動作分析　臨床活用講座（メジカルビュー社）

参考図書･文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後とにも30分以上

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	人間発達学						
担当講師	田中　弘美						
実務経験の概要	：作業療法士。医療施設、発達領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

人間発達学は、生物学的、社会的、心理的存在としての人間を、発達という観点から全体として捉えることを目的とする学際的学問です。各発達期の概要を学ぶとともに、特に乳幼児期の発達の仕組みについて詳細に学びます

学修到達目標

発達の原則・発達区分・理論などの基本的な知識について説明できる
乳児期の運動発達・認知発達の流れを説明できる
反射反応の発達を説明できる
幼児期・学童期の発達の概要を説明できる
青年期・成人期・老年期の発達の概要を説明できる

授　業　計　画

第1回　人間発達学の概念　発達過程、区分、発達の原則
第2回　人間発達学の概念　発達課題、発達理論の変遷
第3回　発達過程と課題　胎児期　　受精から出生まで
第4回　発達過程と課題　胎児期　　脳の発生と発達
第5回　発達過程と課題　乳児期　　正常運動発達の概要
第6回　機能別発達過程　乳児期の運動発達
第7回　機能別発達過程　反射反応について
第8回　機能別発達過程　各種反射・反応と検査法
第9回　機能別発達過程　反射反応の発達と運動発達の関連
第10回　機能別発達過程　乳児期の認知発達
第11回　機能別発達過程　言語機能・社会性の発達
第12回　発達過程と課題　幼児期　　幼児期前期、後期の発達概要
第13回　発達過程と課題　学童期　発達の概要
第14回　発達過程と課題　青年期・成人期　発達の概要
第15回　発達過程と課題　高齢期　発達の概要　　発達検査

評価方法

筆記試験60%　小テスト20%　取り組み姿勢10%　提出物10%

教科書

コメディカルのための専門基礎テキスト人間発達学（中外医学社）　・イラストで見る発達障害の作業療法（医歯薬出版）

参考図書･文献

乳児の発達 - 写真で見る0歳児 -（医歯薬出版）　運動発達と反射（医歯薬出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

発達指標を覚えることに留まらず、多くの発達課題が夫々に関しあって一つ一つの機能を積み上げているその仕組みを理解することで、発達の理解はさらに深まります。何より、自分がこれまでたどった道、これからたどる道でもあります。より身近な学問として関心を持って学習していただきたいと思います。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	医療概論						
担当講師	齊藤　和好　　田中　弘美						
実務経験の概要	齊藤　和好　：医師　本学院学院長　医科大学外科教室教授、病院長を歴任され、現在も診療に携わる。 田中　弘美　：作業療法士。医療施設、発達領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義　オムニバス						

授業概要

この科目では、医学･医療の概要について理解することを目的として以下の内容を学習します。

1．医療の対象となる病気を理解するために健康と病気について学ぶ

2．医学、医療の基本となる理念、概念、課程、倫理、死生観について学ぶ。

3．日本における医療制度、構造、保健医療政策について学ぶ。

学修到達目標

1．健康とは何か、病気とは何かを述べることができる。

2．医学の概念、歴史、倫理について述べることができる。

3．死生観を述べることができる。

4．日本の医療制度、構造、安全、連携・予防・保健医療対策について述べることができる。

授　業　計　画

第1回	医学とは	齊藤　和好
第2回	健康と病気	齊藤　和好
第3回	近代医学の歴史	齊藤　和好
第4回	医の倫理	齊藤　和好
第5回	患者の権利　意志決定	齊藤　和好
第6回	医療の流れ　病気の診断と治療の概要１	齊藤　和好
第7回	医療の流れ　病気の診断と治療の概要２	齊藤　和好
第8回	死への対応	齊藤　和好
第9回	医学と医療	田中　弘美
第10回	日本における医療・保健制度１	田中　弘美
第11回	日本における医療・保健制度２	田中　弘美
第12回	医療に関連する法規１　医療法　医療施設	田中　弘美
第13回	医療に関連する法規２　医療事故と医療安全	田中　弘美
第14回	医療専門職の理解と連携	田中　弘美
第15回	病気の予防とこれからの保健医療対策	田中　弘美

評価方法

定期試験　100％　（齊藤担範囲50％　田中担当範囲50％）の総合で評価する。

教科書

医療概論　総合医学社

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

医療職の倫理感、医療の基礎となる内容です。考えて、学ぶよう心がけて下さい。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	臨床医学概論						
担当講師	齊藤　和好						
実務経験の概要	齊藤　和好　：医師　本学院学院長　医科大学外科教室教授、病院長を歴任され、現在も診療に携わる。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

この科目では、医療概論で学んだことに引き続き、臨床で見られる主な病気とその治療過程について理解することを目的として学習します。

具体的な内容としては、症状や疾患の原因と対応、その疾患を診断し治療する手段、課程を学びます。

学修到達目標

1．疾病の主要症状とその原因について説明できる。
2．主要な症状とその対応について説明できる。
3．疾病を診断する手段と治療法について説明できる。
4．各病期等における医療を説明できる。

授　業　計　画

第1回　基礎医学(身体の構造と機能）1
第2回　基礎医学(身体の構造と機能）2
第3回　臨床医学の概要　臨床医学とは？　疾病の分類
第4回　疾病の主要症状とその原因１
第5回　疾病の主要症状とその原因２
第6回　主要な疾患とその対応１
第7回　主要な疾患とその対応２
第8回　診断するための手段１　医療面接　身体診察
第9回　診断するための手段２　臨床検査　画像
第10回　具体的な治療法1　薬物　手術　放射線治療　栄養管理　緩和ケア　リハビリテーションなど
第11回　具体的な治療法2　薬物　手術　放射線治療　栄養管理　緩和ケア　リハビリテーションなど
第12回　各病期における医療　　救急救命医療
第13回　各病期における医療　　療養期　在宅　ターミナルケア
第14回　その他の医療　災害医療など
第15回　感染予防

評価方法

定期試験(筆記試験）で評価する。

教科書

コメディカルのための専門基礎分野テキスト　　医学概論　　中外医学社

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

医学の基礎を学びます。基礎医学と関連づけて学習して下さい。

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	リハビリテーション概論						
担当講師	西城　学						
実務経験の概要	：作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義　グループワーク						

授業概要

リハビリテーション専門職にとって基礎となるリハビリテーションの概要と障害について理解する。リハビリテーションの歴史、障害の捉え方、分類、多職種理解と連携、社会保障に関する各種法整備など理解をし、理学療法、作業療法を行う基礎的知識を学ぶ。

学修到達目標

1. リハビリテーションの概要と疾病・障害の概要を説明することができる。
2. 国際機能分類を理解し、人の生活機能を分類することができる。
3. リハビリテーションの過程と治療介入法について説明することができる。
4. リハビリテーション専門職に求められる役割とチームアプローチの重要性について説明することができる。

授　業　計　画

第1回　オリエンテーション　　リハビリテーションとは
第2回　リハビリテーションの概念・理念・定義
第3回　疾病・障害の概念と分類
第4回　障害の捉え方（医学モデル・社会モデル・統合モデル）
第5回　国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）の違い
第6回　国際生活機能分類（ICF）
第7回　国際生活機能分類（ICF）　グループワーク（事例検討）
第8回　リハビリテーション過程と諸段階
第9回　リハビリテーションの治療介入法（トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ）
第10回　リハビリテーション専門職とチームアプローチ
第11回　リハビリテーションの広がり
第12回　ADL、QOLの概念
第13回　生活機能の評価とリハビリテーション
第14回　高齢者・健康対策と少子化対策
第15回　医療・福祉制度と関係法規

評価方法

筆記試験（80%）　レポート（10%）　取り組み姿勢（10%）

教科書

リハビリテーション概論　改訂第3版（永井書店）

参考図書･文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後とにも30分以上

【専門基礎分野】　　【作業療法学科】

科目名	社会福祉論						
担当講師	鈴木　智之						
実務経験の概要	認定社会福祉士（高齢分野）、主任介護支援専門員、精神保健福祉士として地域包括支援センターに勤務している。経験としては居宅介護支援事業所、養護老人ホーム、経費老人ホーム、通所介護事業所など高齢者領域において、主に相談支援実務に従事していた。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

講義や演習を通じ、子ども、障害、高齢者、生活困窮、保健・医療など昨今の複雑化・複合化するさまざまな生活課題を理解し、制度や分野を越えた社会福祉のあり方と専門職の役割を学び、地域共生社会の実現が身近に考えられるよう授業をすすめる。

学修到達目標

・社会福祉の概要と今後の展開が理解できる。
・地域共生社会の実現に向けたリハビリテーション専門職の役割や関わり方について理解できる。

授　業　計　画

第1回	社会福祉とは何か！？
第2回	社会福祉のあゆみと仕組み
第3回	現代社会と社会保障
第4回	児童・家庭福祉
第5回	障害者福祉【Ⅰ】
第6回	障害者福祉【Ⅱ】
第7回	障害者福祉【Ⅲ】
第8回	高齢者福祉【Ⅰ】
第9回	高齢者福祉【Ⅱ】
第10回	医療福祉
第11回	低所得者福祉
第12回	司法福祉・権利擁護
第13回	地域福祉と多様性
第14回	専門職と倫理
第15回	地域共生社会の実現と実践事例

評価方法

期末試験及び授業態度により総合的に評価する

教科書

鬼﨑信好・本郷秀和/編「コメディカルのための社会福祉概論　第5」講談社（2023）

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

時事に関する話題も取り入れます。新聞を読んだり、ニュースを見るなど地域社会でどのようなことが起きているのかについて関心を向けておきましょう。